

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月10日現在

機関番号：11301

研究種目：特別推進研究

研究期間：2008～2012

課題番号：20001001

研究課題名（和文） 清朝宮廷演劇文化の研究

研究課題名（英文） A Study of Culture of Court Theatre during the Qing Dynasty

研究代表者

磯部 彰（ISOBE AKIRA）

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：90143841

研究成果の概要（和文）：満洲人が中国を支配し、東アジアにユーラシア帝国、「大清グルン」という満洲帝国を構築する中で、占領下の様々な伝統文化に再処理を施して国家統治の道具とした。演劇も娯楽的要素とは別に儀礼的な要素が加えられ、儒教の古典的礼楽とは異なる新たな礼楽として、国内・国外へ発信することになった。これが清朝宮廷演劇であり、地方都市や郷鎮各地で演じられていた宗教儀礼の色彩濃い民間の演劇とは性格を異にする。

研究成果の概要（英文）：As the Manchus extended their rule over China and built up the Manchu empire (Daicing gurun), a Eurasian empire, in East Asia, they reprocessed various forms of traditional culture in the regions they occupied and used them as instruments of state rule. In the case of the theatre, ritual elements were added to elements associated with entertainment, and it came to be promoted both inside and outside China as a new form of ritual music, differing from the classical ritual music of Confucianism. This was the court theatre of the Qing, and it differed in character from the folk plays, with their strong tinges of religious rites, that were performed in provincial cities and throughout the countryside.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	25,900,000	7,770,000	33,670,000
2009年度	24,400,000	7,320,000	31,720,000
2010年度	27,800,000	8,340,000	36,140,000
2011年度	27,700,000	8,310,000	36,010,000
2012年度	22,400,000	6,720,000	29,120,000
総計	128,200,000	38,460,000	166,660,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：大清グルン、張照、連台大戯、節戯、南府・昇平署、安殿本、儀典戯、古本戯曲叢刊第九集

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日の中国における伝統文化は、主として明清時代に形成され、中国社会、東アジア社会での文化形成に多大な影響を与えた。また、華僑などを通して東南アジア、そしてヨーロッパ・アメリカまでにもたらされて、独

自の文化を定着させている。その伝統文化の中核となったものに、演劇文化がある。

(2) 中国での演劇の歴史は長く、宋元時代に様式を定め、清代に至って宮廷演劇の成立の結果、伝統文化の結晶とも言うべき存在とな

った。そして、近代・現代中国では文学・芸術・芸能と一体化して社会のすみずみに溶け込み、過去中国の歴史や社会規範、人間関係、美意識などを伝えつつ、多様な展開を遂げている。

(3) 中国演劇研究は文学史的研究に重点が置かれ、社会構造などからは切り離されていた。近年、地方劇の研究から、新しく社会史からの演劇史研究が進展している。しかし、演劇の歴史の中で演劇文化を国家事業に組み込んだ清朝の演劇文化をめぐる具体像は取り上げられず、断代史的な形で宋元、明、清そして民国・現代で演劇史が辿られるに過ぎない。

(4) そのような従来の清朝宮廷演劇研究の持つ限界、つまり、清代演劇の研究が文学史的研究に止まっていた点を鑑み、大戯の主要な作品のテキスト研究のみならず、作品成立の文化史的背景などを探り、清代文学の空白部分を補填する一方、東アジア冊封体制の中での展開を考察し、清朝の文化政策を明らかにすることにより、現代中国をより適切に理解することが重要ではないかと認識するに至った。その背景には、現代中国を規定する時代が大清グルン、つまり清帝国であるという最新の史学成果がある。

2. 研究の目的

(1) 清朝の宮廷演劇の作品内容の全貌、及び明代小説が宮廷演劇本に編成される文学史・芸能史上の流れを明らかにする。

(2) 国家事業としての宮廷演劇が持つ政治性、そして演劇文化に政治的色彩が混入していく過程を明らかにする。

(3) 清朝宮廷演劇が地方演劇形成に与えた影響を導き出す。

(4) 清朝が外国使節に宮廷演劇を鑑賞させたねらい、外国使節が宮廷演劇をいかに理解し、自国の演劇文化と結合させたか否かを明らかにする。

(5) 中国の近現代における演劇の政治的利用、清朝宮廷演劇資料の整理と出版に見る政治史的動向、社会との係わり合いを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究テーマは内府演劇の大戯・節戯と内府本及び演劇資料研究、清朝政治体制史の研究に分別し、フィールド調査文献研究を導入

して研究を進める。

(2) 全体組織の運営は、推進代表者が統括し、研究協力者等との連絡や協力を得る他、研究情報をホームページに掲載し、ニューズレターを発行する。

(3) 大戯については、新たな資料発見などの状況が起こった場合、分担研究に当初ない作品も組み入れる。

(4) 研究成果の公表及び情報交換のために、東アジア演劇文化に関する研究会を実施する。また、研究集会の際、幅広いジャンルの若手研究者や学生を研究活動に取り込む。

4. 研究成果

(1) 清朝の宮廷演劇は、漢族の明朝の宮廷演劇とは異なり、国家行事として扱われた。そのため、演劇文化の担い手は主に皇帝の手中にあり、南府や昇平署は演劇維持の実務を担っていたにすぎなかったことが導き出された。

(2) 宮廷承応戯には月令承応戯などがあり、国家行事では大戯、上演されていた。

(3) 大戯及び節戯の作者は、明代の長編小説の他、清朝廷の偉業や事業を取り入れて作品構成を行なった。そして、乾隆後期に儀典戯の色彩が強くなるとともに、テキストに大幅な改訂を加え、同名異種の作品化の道を行っていった。その背景には、皇帝や王朝の意向が反映することを求められていたことがあった。

(4) 中国の『古本戯曲叢刊』所収宮廷大戯とは異なる異本鈔本の存在、或は、旧来の作品を改作した新作の演目が多数あることが判明した。

(5) 宮廷演劇が編集される際、旧来の演劇も利用されたが、張照ら廷臣はサロンの幕僚らの知識を利用して新たな展開を組み込み、従来言われていたような小説を演劇仕立てにしたものではないことがわかった。

(6) 四庫全書編纂、平定ジュンガル戦、文殊信仰など、清朝と係わりの深い事項は宮廷演劇の題材となった。

(7) 節戯の概念は幅広く、月令承応戯が中心で、民間演劇に影響を与えた。

(8) 朝鮮朝の使臣やベトナムの使節、モンゴル王侯らが宮廷演劇や地方劇に接した態度

は一樣ではなく、ベトナム使節が最も親近感で捉え、モンゴル王侯は一部の王族を除けば漢族の演劇には冷淡な態度にあった。

(9)内府本演劇作品の中で、従来紹介されたことがない 11 種(鈔本)をカラーで複製を作り、その解説を添えて国内・国外に発信した。

(10)研究分担者以外、若手研究者の育成に務め、中国小説と演劇文化を中心とした次代の研究者育成につなげることが出来た。

(11)本研究活動を通して、国際的に清朝宮廷演劇文化の研究方法を広く発信することになり、中国や台湾ヨーロッパの研究者、とりわけ若手研究者に刺激を与えることが出来た。

(12)清朝史研究上、宮廷演劇文化が極めて重要な事項の一つであることを発信し、今後文化史のみならず、政治史でも重視すべきことを呈示することになった。

(13)京劇の源泉の一つである徽劇が北京で盛興となったのは、通説よりも早く、宮廷演劇には民間劇団やテキストが取り込まれていることから、相互の緊密な関係が判明した。

(14)清朝宮廷演劇は、民国になると軍閥や資本家が、共和国になると共産党幹部が利用し、その政治的側面が生き延びて今日に及び、中国人の日常生活に浸透した点が明らかにされた。

(15)文化大革命の発動と『古本戯曲叢刊』第九集の編集とが深く係わっていて、その内容に宮廷演劇の作品が収められていたことも関係していた点が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 54 件)

- ① 大塚秀高、『鉄旗陣』と『昭代簫韶』、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要『日本アジア研究』、査読無、第 10 号、2013 年、73-124、http://sucra.saitama-u.ac.jp/module_s/xoonips/download.php/KY-AA11946779-10-05.pdf?file_id=28495
- ② 磯部彰、清朝内府戯劇《昇平寶筏》之研究、“古典戯曲辨疑与新説”国際学術研討会論文匯編、査読無、巻無、2012 年、182-201

- ③ 磯部祐子、略論節戯中の月令承応戯、“古典戯曲辨疑与新説”国際学術研討会論文匯編、査読無、巻無、2012 年、163-181
- ④ 陳仲奇、『中国地方戯曲集成』の編集出版について、島根県立大学 総合政策学会『総合政策論叢』、査読有、第 23 巻、2012 年、139-156、<http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/32kiyou/10sogo/seisaku23.data/seisaku2310.pdf>
- ⑤ 小松謙、三国志物語の原型について—演劇からの視点—、林田慎之助博士傘寿記念三国志論集、査読無、巻無、2012 年、353-368
- ⑥ 中見立夫、バボージャブの軌跡—“モンゴル独立”をめざし挫折した、ある内モンゴル人の実像—、東洋史研究、査読有、第 71 巻第 2 号、2012 年、92-125
- ⑦ 杉山清彦、清代の北京と紫禁城—武人と文人、旗人と民人—、東京大学史料編纂所紀要、査読無、第 22 号、2012 年、281-291、<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/kiyo/22/kiyo0022-20.pdf>
- ⑧ 金文京、試論「董解元西廂記諸宮調」之語言藝術風格、国際漢学研究通訊、査読有、第 3 期、2011 年、91-107
- ⑨ 小松謙、清朝宮廷大戯『如意宝冊』について、和漢語文研究、査読有、第 9 号、2011 年、104-130
- ⑩ 小松謙、清朝宮廷大戯『鼎峙春秋』について—清朝宮廷における三国志劇—、中国文学報、査読有、第 81 冊、2011 年、58-129
- ⑪ 中見立夫、On the materials of the Imperial Cabinet Archives (Neige daku dangan) and their Manchu and Mongolian sources in the Institute of History and Philology, Academia Sinica: Location, history of research, and our research project、Quaestiones Mongolorum Disputatae (QMD)、査読有、No. 7、2011 年、38-47
- ⑫ 中見立夫、辛亥革命时期的内蒙古王公—以喀喇沁右翼旗贡桑诺尔布郡王为例、明清論叢、査読有、第 11 輯、2011 年、121-127
- ⑬ 大塚秀高、西王母の娘たち—「遇仙」から「陣前比武招親」へ—、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要『日本アジア研究』、査読無、第 8 号、2011 年、81-94、http://sucra.saitama-u.ac.jp/module_s/xoonips/download.php/KY-AA11946779-08-04.pdf?file_id=20314
- ⑭ 磯部祐子、劇本において内府本とは何か、ナオ・デ・ラ・チーナ、査読無、第 11

号、2011年、30-39

- ⑮ 大塚秀高、関羽為什麼斬貂蟬、東吳文化暨第二十三屆三國演義學術研討會論文集、査読無、巻無、2010年、460-465
- ⑯ 磯部祐子、中国の演芸と仏教、新アジア仏教史 08 中国Ⅲ宋元明清『中国文化としての仏教』、査読無、2010年、252-255
- ⑰ 磯部彰、《江流記》及《升平宝筏》与刊本西游记、中国典籍与文化国際學術研討會論文集(一)、査読無、2010年、78-85
- ⑱ 高橋智、古籍流通的意義—善本和蔵書史、中国典籍与文化、査読有、総 72 期、2010年、96-108

〔学会発表〕(計 42 件)

- ① 大塚秀高、清朝宮廷連台戯「鉄旗陣」与「昭代簫韶」、第五屆中国小説与戯曲国際學術研討會、2013年03月29日、台湾嘉義市 嘉義大学
- ② 加藤徹、京劇のコンセプトの特異性—歴史と「次元」の視点から—、第六回「21世紀日本の芸術と社会を考える研究会」(公益財団法人サントリー文化財団)、2013年03月07日、東京都 ANA インターコンチネンタルホテル東京
- ③ 磯部祐子、略論節戯中の月令承応戯、「古典戯曲辨疑与新説」 国際學術研討會、2012年12月28日、中国黒竜江省哈爾濱市 伏爾加莊園
- ④ 磯部彰、清朝内府戯劇《昇平寶筏》之研究、「古典戯曲辨疑与新説」 国際學術研討會、2012年12月27日、中国黒竜江省哈爾濱市 伏爾加莊園
- ⑤ 中見立夫、“Бабуджапи его блуждающая армия: Декларация независимости, Первая мировая война и советская гражданская война во Внутренней Монголии, 1911-1921.” (パボージャブと彼の彷徨える軍団)、Мир Центральной Азии (「内陸アジア」世界)、2012年9月19日、ロシア連邦ウラン・ウデ市 ロシア連邦科学アカデミー・モンゴル学・仏教学・チベット学研究所
- ⑥ 中見立夫、満語文献の諸相—《満文大藏經》、《満文老档》和《百二老人語録》、中央民族大学中国少数民族語言与古籍研究所、2012年6月15日、中国北京市 中央民族大学
- ⑦ 高橋智、清宮内閣蔵書一斑、台湾淡江大学社会と文化国際學術研討會、2012年05月04日、台湾新北市 淡江大学
- ⑧ 高橋智、清宮内閣蔵書について、故宮博物院故宮学研討會、2011年11月11日、中国北京市 故宮博物院
- ⑨ 中見立夫、辛亥革命时期的内蒙古王公—

以喀喇沁右翼旗贡桑诺尔布郡王为例、中国辛亥革命百年紀念暨第十四屆国际清史学术研討會、2011年9月17日、中国北京市 九华山庄

- ⑩ 中見立夫、日本现存蒙文、满文古旧文献的收集历史及其特点、首届中国少数民族古籍文献国际學術研討會、2010年10月20日、中国北京市 中国社会科学院人类学与民族学研究所
- ⑪ 大塚秀高、《全漢志伝》、《兩漢開国中興伝誌》研究緒論、慶賀朱一玄先生飛躍年寿誕暨中国古代小説国際學術研討會、2010年9月24日、中国天津市 南開大学
- ⑫ 杉山清彦、大清帝国史研究在日本、「満学：歴史与現状」 国際學術研討會、2010年8月30日、中国北京市 北京市社会科学院
- ⑬ 杉山清彦、清初期对漢軍旗人“満洲化”方策、清代満漢關係史国際學術研討會、2010年8月28日、中国北京市 中国社会科学院近代史研究所
- ⑭ 磯部祐子、從日本的角度看中国小説戯曲研究、復旦大学海內外中国古代文学研究的前沿問題、2010年8月3日、中国上海市 復旦大学
- ⑮ 磯部彰、《江流記》及《升平宝筏》与刊本西游记、中国典籍与文化国際學術研討會、2010年3月9日、中国北京市 北京大学
- ⑯ 金文京、關於兩種湯賓尹校正本《三國志傳》、2009年韓国中国小説学会創立 20周年記念国際學術大会、2009年9月19日、韓国ソウル市 崇實大學校
- ⑰ 磯部祐子、從平湖鉞子書芸人藝中国民間曲藝的現状、2009年韓国中国小説学会創立 20周年記念国際學術大会、2009年9月19日、韓国ソウル市 崇實大學校

〔図書〕(計 20 件)

- ① 磯部彰 (編著)、東北大学出版會、大阪府立中之島図書館蔵『昇平宝筏』(全 10 冊)、2013年、2912
- ② 磯部彰 (編著)、東北大学東北アジア研究センター、清朝宮廷演劇文化の世界(東北アジア研究センター叢書第 49 号)、2012年、368
- ③ 磯部彰 (編著)、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『西遊記』画三種の原典と解題、2012年、306
- ④ 磯部彰 (編著)、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、上海図書館所蔵『進瓜記』原典と解題、2011年、202
- ⑤ 金文京、国際高等研究所、能と京劇一日中比較演劇論、2011年、93
- ⑥ 加藤徹、中央公論新社、中国古典からの発想——漢文・京劇・中国人、2010年、304

- ⑦ 磯部彰 (編著)、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、上海図書館所蔵『江流記』原典と解題、2010年、212
- ⑧ 金文京 (高橋智 編)、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、慶應義塾図書館蔵「四郎探母等四種」原典と解題、2009年、234
- ⑨ 磯部祐子 (磯部彰 編)、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、東北大学附属図書館蔵「如是観等四種」原典と研究、2009年、170

[その他]

ホームページ等

清朝宮廷演劇文化の研究

<http://eapub.cneas.tohoku.ac.jp/court/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯部 彰 (ISOBE AKIRA)

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：90143841

(2) 研究分担者

大塚 秀高 (OTSUKA HIDETAKA)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：30126007

金 文京 (KIM MOONKYONG)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：60127074

鈴木 陽一 (SUZUKI YOUICHI)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：00131722

磯部 祐子 (ISOBE YUKO)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：00161696

高橋 智 (TAKAHASHI SATOSHI)

慶應義塾大学・附属研究所斯道文庫・教授

研究者番号：80216720

陳 仲奇 (CHEN ZHONGQI)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：00326399

加藤 徹 (KATO TORU)

明治大学・法学部・教授

研究者番号：80253029

小松 謙 (KOMATSU KEN)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：00195843

中見 立夫 (NAKAMI TASTUO)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：20134752

杉山 清彦 (SUGIYAMA KIYOHICO)

東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：80379213

(3) 連携研究者

なし ()

研究協力者

陳 正宏 (CHEN ZHENGHONG)

復旦大学・古籍整理研究所・教授

石 雷 (SHI LEI)

中国社会科学院・文学研究所・副編審